

ひかり515号が走行中に歯車箱が大破！

4月18日のひかり515号（C50編成）の歯車箱破損事故について、会社が19日プレス発表した概況は以下のとおりです。

ひかり515号（東京13：33発、新大阪駅16：30着 700系16両編成：JR東海所属C50編成）が新大阪駅に到着する際、車輪回転異常を一時的に検知したことを示す表示灯が点灯しました。運転台で確認を行ったところ、正常に走行できることが確認できましたが、念のため車両交換をすることとし、以降の当該車両の運用を打ち切り、大阪仕業検査車両所に回送しました。



調査した結果、10号車No.1台車のアルミ合金製の歯車箱の一部の破損を認めました。

歯車は正常に動作する状態でした。

なお、破損により落した部品の大半を夜間の巡回により京都～新大阪の線路内で発見しています。

全社員の皆さん、プレス発表の内容と公表された写真を見てどう思われますか！？

よくこんな状態で走っていたものだ・・・、一歩間違えば大惨事に・・・、もっと早く異変に気がつかなかったのか・・・等々。様々な感想があることだと思います。

回送中に破損が進み二重に事故を起こす可能性もあった！？

今のところ、今回の事故で歯車箱破損の原因に注目が集まっていますが、問題点はそれだけではありません。何故、車両点検も行わず、歯車箱から歯車が見えるほどまで破損しているのに回送したのか。たとえ回送させたとしても、回送中に歯車箱の破損が進み、二重に事故を起こす可能性も考えられます。また、新たに部品が脱落し、本線上に落下した部品が走行中の車両に当たって、最悪の場合、脱線や沿線への飛び出しなどの可能性も考えられます。しっかりと車両点検を行い、安全を確保したうえで、回送させるべきではなかったでしょうか。

鉄道会社の使命として一番優先されるのが安全です。『運行』が『安全』より優先されてはならないと考えます。今回の事象では、『安全』より『運行優先』の姿勢が垣間見られ、二次災害が起きる可能性もありました。たとえお客様を乗せていないとはいえ鉄道としてはあってはならないことです。

大阪修繕車両所分会は、今後の『安全輸送』の教訓とするためにも、事故の詳細、原因究明、対策など会社の見解を求めて解明要求の申し入れを行っていきます。